

☆作業日あれこれ

真冬の作業日でしたが、2月13日は快晴。しかし、時間になれども参加者が意外に少なく、こりゃ土曜日の参加者の最低記録になるかいなと炭焼名人などと話し合っていると、それなりの数が集まり一安心した次第です。ちなみに名人に、気になっていた今年初めての炭焼の結果をお伺いしましたところ「材料の木が少なかったんで乾燥したんやら生木が混じって、どっちつかずの中途半端。焼け過ぎたんと芯が炭にならないかったんが混じった状態でしたわ。」と残念そうな様子でした。観察会では、初に苦労した三平トキは、森に咲き始めたウを題材に、左側にウにまつわる諺を列挙、意味を右側から選ぶという試みをやりました。「梅と桜」、「梅に鶯」、「梅根性、柿根性」、「梅の木学問、楠学問」、「梅の木分限、楠分限」、

「梅伐らぬ馬鹿、桜伐る馬鹿」などがあります。初めて聞く諺もあり、一同は山勘を働かせて答えを選んでおりました。ここで知ったのは、「梅」は、「柿」や「楠」に対比して成長は早いが大木にはならないことから、余りよい意味では使用されてい



ナラ枯れウグイス

ないと言うことです。この中では「梅と桜」のみが両手に花の意味でウを褒めているくらいです。意外でした。その後、座学ばかりではと春を告げるウの花を愛でようと竹々の林に出かけ、花見です。この森の村里から侵入した梅の木は3本、中でも陽当たりが良く真っ先に咲くのがウの林のそれです。木ままクラブの作業で周りの木を伐って陽当たりが良くなるように手入れをしているので、勢いが出てきたようです。ちらほらとですが花も既に咲いています。竹林の中に埋もれていたこの木を救い出した翌年には、沢山の花が咲き果実も収穫、今もその時の梅干しが残っています。今年久しぶりに手入れの甲斐あって収穫できそうに思いますので、花見の一同に質問、「梅干しにしましょうか、梅酒にしましょうか?」。もちろん皆様のお答えは期待通り「梅酒に決まっとる!」でありました。

作業が始まる頃には参加者も増え、予定通り5班体制で開始です。まずは機械刈班、準備した刈払機6台を使用して、正面入口からの園路

南側のエリアで刈りです。このエリアに先記のウの木もあります。整備してしばらくはササもなく、園路沿いにはタウツギの花、スズキとナバンギル、奥にはウエリの花なども見られたのです。整備前にはウ



落ち葉かき用竹柵

ケが樹木を駆逐して竹藪状態のエリアだったので、ウを除去して林床まで陽が届くようになり、植物の種類が増えました。しかし、管理をしなかったことでサが繁茂して余り好ましくない植生になっていました。今後も継続した管理が必要です。三平トキはヒッコ達と活動発祥エリアの木道寄りであけ退治です。あけ退治と言っても根元から刈るのではなく、引き抜くというかなり荒っぽいやり方です。ヒッコ達は、ロシア民話の「大きなカブ」のような調子で引き抜くことに興奮していました。落葉樹の高木が占める高林管理をしているこのエリアでは中木がなく、林床のあけがなくなると随分すっきりした感じになりました。また木道沿いでは、マキ割した木以外を伐ってすっきりする作業です。整備後に発生したコブシの木があったはずなのと思って調べると、ちゃんと残されており一安心。堤防沿いの竹林ではクラ用竹材の伐り出しを先月に引き続いて実施、某氏運転の軽トラが以前よりは静かに竹を運び出していました。ファイヤーサークルの前では、力が出ない軽ダンプ・エンジンの原因追及と修理を、通りがかった者がそれぞれに加わってやりました。最終的に点火プラグの劣化と判断、交換して快調にエンジンが吹き上がり、めでたしめでたし。マルが昼のミーティング時にこうしたことができることを遊林会のすばらしさと話していましたが、中学の技術家庭の時間に内燃機関について学んだ世代や、日頃、農機具を扱っている面々にとっては当然のことです。大先生の世代ならば軍事教練でたたき込まれた銃の分解組み立てが、現在の若者はパソコンと、それぞれに時代背景があります。

お昼は肉味噌とふろふき大根、焼豆腐の煮物、ゆの炊、椎茸の煮物、粕汁、炊込御飯などと豪華であります。トラ御用達テーブルの横では、これらを酒の肴に盛り上がってしまいました。バレンタインデーにチョコをもらえない面々にはヒッコ手作りのチョコも配られておりました。ありがとう。

3月24日(水曜日) 週日活动 森の居酒屋は3月10日 午後7時頃～

3月13日(第2土曜日) 9時～(遅刻可)

主催者：遊林会

連絡先：東近江市 花と緑の推進課 Tel 0748-20-5211 Fax 0748-20-5210 当日連絡先：携帯(丸橋)090-3352-3163

Eメールでも、ご意見をお待ちしています。E-mail: ikimono@e-omi.ne.jp

第4水曜日はもう4月かと思うほどの陽気で、作業には絶好でした。この日は19人が参加。前回の作業から行って来た、落ち葉かき用竹柵の改修作業です。しかしその前に、本来は処分されるはずの植栽木の支柱杭を竹柵に有効に使うため、支柱杭の取り外し作業から開始です。最近の支柱杭は重機の力でいとも簡単に深さ1m以上まで打ち込めるため、抜くとなると大変です。しかし智者がそろえばあの手この手と出てくるので、ついには人力のみで予定数以上の支柱を抜くことができました。次に古くなった竹柵の取り壊しですが、この竹柵は2002年11月に改修したもので、7年余り使用したことになります。古い竹をたき火の燃料として利用するため運び出した後は、いよいよ新しい柵の改修です。そもそもこの竹柵は、落ち葉をかくことによって地面に光を当て、様々な植物が生育する環境を整えてやるのが目的なのですが、集めた落ち葉が腐って良質の腐葉土ができるので、カブトムシにたくさん卵を産みに来てもらうことも二次的な目的となっています。参加者はみんなそのことを知っているの、作業開始直後は「そんな丁寧で作らんでもいいやろ。どうせ使うのはカブトムシなんやから！」との声が聞こえていました。しかし作業が進むにつれてそんな声はどこへやら…「あと2cm竹を打ち込んで！」「その竹は節でそろえて切らなあかん！」などと精密作業に様変わりしてきました。こうして着々と作業は進み、2008年4月に改修したときの竹柵よりもさらに改良も加え、実に立派な竹柵が完成しました。みんなその出来に大満足です。お昼は久しぶりのおでん。おでんだけのはずが、いつの間にか品数が増えて結局いつもの第4水曜日ならではのにぎやかなメニューとなりました。3時のおやつにはツマ任館入りトーナツまで出てきて、作業もお腹も大満足の日でした。

## ☆スタッフルーム情報

2月後半は暖かい日が続く、森にもたくさんの春が見られるようになってきました。まずは「ホホキョ」とはまだ上手にはいきませんが、ウグイスがさえずり始めました。朽枯れで伐った木の薪をナイチャーセンターのそばに積んでいるのですが、そこによくウグイスがカキムシの幼虫などを食べて来ていて、声だけでなく姿も見せてくれます。次はキハクヤツツが顔を出し始めました。地面からチョコッと頭の先が出ている様を見るとなんだかニコッと笑ってしまいます。昨年完成させた「リリ図鑑」で、草編、春ページの一番に載っているのは材ノヅクリ。陽当たりのよい場所で咲き出しました。花の命は1.2日ととても短くはかない花ですが、この花は自家受粉（自分の花粉を自分のめしべにつけて受粉する）するので、虫のまだ少ないこの時期でも子孫を残す

ことができるんですね。植物ってすごい！そしてキザキイゲが葉っぱを出し始めました。去年は3月17日に咲き出したと森のブログ（かわべえブログ）で紹介されています。このまま暖かい日が続けば、活動日の13日に咲いている姿を見られるかもしれませんね。他にもスズヤクポポ、シシトフなどさまざまな花開く準備をしている最中です。ああ～楽しみです！

## ☆春休み子ども向けイベント情報

3月に入ると、あっという間に春休みがやってきますね。今年もいきものの森ではいろいろな子ども向けイベントを準備しています。お知り合いのお子様がおいでの方はご一緒に森へお越し下さいね。

◎森の定番、クイズラリー：春休み期間中（3月25～4月7日）、毎日（月曜日はのぞく）開催しています。

◎大きな木と遊ぼう!!：3月25日、木の枝にロープをかけて大きなブランコを作ったりベッドを作ったり…大きな木と遊びます。

◎たき火に挑戦!!：3月30日、たき火に使うのは森の中から自分たちで取ってくる小枝や葉っぱ。火がついたあとにもおたのしみを準備しています。

◎森のげいじゅつか!：4月1日、森にある木や枝を使って思いつくまま作品を作る人気イベントです。今回ははじめて高学年向きに「木のスプーンづくり」を行います!

◎森のワクワたんけん隊!!：4月3日、3～6才児を対象にしたイベントで、みんなでお話しを聞いたり、踊ったり、遊んだり…春の森でワクワ・ドドキ楽しみます。

## ☆家族向けイベント

春の森をたっぷり味わおう!：3月27日、森の中で体を動かして思いっきり遊びます。また、お昼からは春ならではのおやつ作りです。ご家族そろって春の森を満喫しにきてくださいね。

申し込み方法など、詳しいことはイベントチラシをホームページで案内しています。興味を持たれた方はご覧になって下さい(イベント受け付けは14日(日)からです)。

## ☆3月の作業日、お昼ごはんは…?

炊き込みご飯と、春の定番である天ぷらの第一弾!ヨモギやツバキ etc …春キャベツも甘くておいしいですよ。お腹の中も春色になるようなメニューでお待ちしています。

**容器やコップは数に限りがあります。食器の持参をお願いします!**